

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟・西棟 )

事業所番号	0292400017		
法人名	大東株式会社		
事業所名	グループホーム 鶴泊の家		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴泊字前田99-1		
自己評価作成日	平成23年12月11日	評価結果決定日	平成24年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成24年1月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ホーム敷地内には馴染み深い温泉があり、いつでも利用者の希望時に利用していただいている。
- ・足湯・あずまやは地域に開放しており、利用者と地域の方と一緒に利用し、交流が持たれている。
- ・月1度の合同レクを実施し、その他、本人の気分や天気の良い日は、ドライブ・買い物等へ出かけるように働きかけている。
- ・全職員が県内外の研修に参加し、全職員のレベルアップを図り、自立支援の実践に向け、日々取り組んでいる。
- ・排泄・浮腫・入浴委員を構成し、月1回の会議内容を全職員に報告・確認し、意見交換しながら、ケアに取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に暮らし生きることへの支援」という独自の理念を掲げている。ホームの敷地内には足湯があり、地域の人達の交流の場として利用されている。また、共有スペースからは田んぼや畑、広大な岩木山が眺められ、自然を通じて四季を感じられる空間となっている。また、トイレ、洗面所は利用者が安心、安全に利用できるように工夫されている他、温泉気分が味わえるように温泉棟があり、露天風呂、ヒノキ風呂等を毎日好きな時間に入浴できる。管理者、職員は利用者の笑顔を見たいとの思いで、利用者の日常生活を支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設時より「共に暮らし生きることへの支援」を理念に掲げ、人と人とのつながりを大切にしたい支援に努めており、住みなれた地域に、一住民として、より良く暮らせるように、支援している。</p>	<p>「共に暮らし生きることへの支援」というホーム独自の理念を掲げており、玄関の目につくところに掲示している他、管理者及び職員は、新任研修時や職員会議の際に共有化している。職員は、利用者一人ひとりが住み慣れた地域でより良く生きることを考え、日々の支援に努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、地域便りも回覧している。町の運動会や祭り、地域の法要・草刈り・泥上げ等にも積極的に参加している。また、敷地内の足湯を一般に開放している。</p>	<p>ホームの敷地内に足湯があり、誰でも気軽に立ち寄ることができ、地域の交流の場となっている。また、町内会の行事等に積極的に参加している他、ホームの行事にも参加を呼びかけ、近隣の人達が多数参加し、日常的に交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>納涼祭や地域活動への参加を通して認知症の人への理解を求めたり、2ヶ月に1回発行している地域便り「共に生きるための架け橋」を各所に掲示し、地域の方々に認知症の知識についての周知を図っている。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議では、行政や社協・家族・地域の方に参加していたり、サービスについての意見交換やアドバイス・ホーム内状況や行事、研修報告等も行っている。</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者の状況報告や研修の報告、自己及び外部評価の取組みや結果についての報告を行っている。また、メンバーには、利用者や利用者家族の他、消防団や防災婦人部等もあり、各方面からの意見が出され、サービス向上に活かした話し合いを行っている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議へ参加してもらっている他、利用者の重度化や認知症の症状等についての助言や指導をいただいている。また、施設運営に関して日頃から相談し、協力関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議に役場職員、地域包括支援センターの職員の参加があり、会議を利用し、相談や助言をしてもらったり、疑問に感じたことや困った時には、早急に相談に行き、課題解決に向けて連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての内部研修を行い、全職員に周知し、身体拘束を行わない方針でケアに取り組んでいる。夜間の防犯対策による施錠以外は開放し、利用者が自由に出入りしている。</p>	<p>内部研修や外部研修に参加し、全職員で身体拘束の内容や弊害について理解している。ベットの柵や夜間防犯上の施錠に関しては、入所時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。職員は、身体拘束は行わないという姿勢で、日々の支援に取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを作成し、同意書は整備されているが、やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等を記録する様式を整えることに期待したい。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての内部研修や外部研修に参加しており、全職員が理解している。入浴時、身体観察による紫斑確認等にも配慮している。また、職員同士が話し合いながら、ストレス軽減を図ることにより、虐待の発生要因を作らないようにしている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、日常生活自立支援事業・成年後見制度について学習し、全職員が理解と活用に取り組んでいる。しかし、十分とはいえないため、内部研修も行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時には、家族から意見を伺いながら、リスク・医療・緊急時の対応等について、十分な説明をしている。また、入所後も随時、質問の受付・説明・相談に応じており、理解・納得を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に意見や要望を伺ったり、毎月のお知らせには御意見欄を設け、意見を伺っている。また、随時電話受付の対応も行っており、出された意見に対しては職員間で対応・検討し、運営や業務に反映できるように努めている。</p>	<p>面会時には、家族が気軽に意見や要望を話せるように積極的に声をかけて把握に努めている他、普段から利用者の言動やしぐさを観察し、利用者の不満や意見等を察知できるように努めている。また、家族から意見や要望があった際は、申し送りや会議で内容を周知して対応策を話し合い、今後の支援に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・各委員会・職員会議だけでなく、随時職員が意見を提案出来る環境を整えている。	職員は、食事・排泄・入浴・浮腫等の各委員会に所属し、責任を持って業務に当たっており、利用者に関わる話し合いをしている。また、申し送りやサービス担当者会議の際に意見を出し、出された意見は検討し、随時運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は東京在住のため、施設長と随時連絡を取っている。事前に職員個々の休日希望を受け入れ、人員を確保出来るよう、ローテーションを組んでいる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修に積極的に参加することで、レベルアップを図っている。また、全職員に学びの場を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入し、積極的に研修に参加して意見交換をしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、他施設からの見学の受け入れや足湯を開放していることで、いつでも交流出来る環境である。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族からの相談を傾聴し、不安や要望等の話が出来る場を設け、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を汲み取りながら、信頼関係の構築に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査・入所時の聞き取り、サービス利用状況を確認し、相談に応じている。初期対応を見極め、必要な支援の検討に対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者への一方的な関係でなく、出来ること、やりたいことを感じられるような環境・相互的な関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの暮らしぶりや気づきを毎月の「お知らせ」で報告し、情報の共有に努め、本人の日々の生活が見えるような関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や知人との継続的なつながりを保てるように支援している。また、買い物等にも一緒に出かけている。	センター方式や入所の際に馴染みの場所や人を把握し、これまでの関係が途切れないように支援している。また、毎日手紙を書いている利用者があり、投函の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係や一人ひとりの価値観・心身の状況を考慮しながら、関わり合う場を作ることを心がけ、お互いに支え合えるような関係を構築している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了（入院等）しても、家族の相談を受ける等、出来る限りの対応をしている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人の言葉や態度・表情により、意向を把握して対応している。また、必要に応じて、家族から情報を得ながら、ケアプランにも反映している。	利用者に寄り添うような支援を行い、会話や動作、表情等から利用者一人ひとりの希望や思いを把握するように努めている。また、必要に応じて家族や関係者等から情報を収集し、把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人や家族からこれまでの生活状況の聞き取りしているが、入所後も新しい気づきが見られた際には、随時アセスメントシートやケース記録に記入し、全職員が把握出来るように努め、家族にも報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活リズムに対応している。また、場合によっては体調を考慮し、休養が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・モニタリングを行い、一人ひとりの情報報告や相談・医療等について、本人の現在を考えながら作成している。また、介護計画作成後は、家族が確認した上で同意を得ている。	介護計画は、利用者や家族の意見を聞いて反映させ、担当職員を主体に全職員の意見や気づきを取り入れて作成している。また、利用者一人ひとりの状態に応じた具体的な内容となっており、3ヶ月の実施期間に関わらず、身体状況や希望の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの作成やケース記録として、日々の様子や身体・水分摂取・排泄・通院等の状況を、職員が把握出来るようにしている。その上で、本人の意向に沿ったケアプランを作成し、実践に向けて取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と相談しながら、要望に応じて、通院や送迎等、必要な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との協力体制を構築しており、避難訓練時は消防署に依頼し、指導を受けている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前からのかかりつけ医への受診を継続し、受診結果については電話や「お知らせ」にて報告している。また、本人や家族の希望により、転院を支援している。家族も受診へ同行していただき、医師・本人・家族・職員の連携を図っている。</p>	<p>利用者のこれまでの受療状況を把握しており、希望する医療機関を受診できるように支援している。また、必要時に医療機関や家族と話し合いを行っている他、受診結果についても共有化している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の健康管理・状態変化について、24時間の看護体制を整えており、随時連絡・指示を受けられるようになっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は毎日見舞いに行き、本人の様子を観察する他、家族や医師・看護師との情報交換を怠らないようにしている。(洗濯物はホームで行っている)また、退院後の対応がスムーズに出来るように努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末ケアの医師の確保は出来ていないが、身体的リスクが予想された場合は家族へ連絡し、適切な対応を相談しながら、医療関係者と支援に取り組んでいる。また、終末期の対応方針については定めている。</p>	<p>重度化の対応について、ホームとしての方針を明確にしており、入所時に説明している。また、看取りが必要となった際には家族や主治医、関係機関と話し合いをし、意思統一を図るよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署において救急法講習を受講しており、急変時や事故発生時に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練の他、年2回の夜間を想定した訓練も行っている。消防署や地域の方の指導訓練も行われており、地域連絡網を作成し、協力を得ている。	年2回、消防署員の参加のもと、消防訓練が行われている他、毎月15日に、利用者と職員による避難訓練が行われている。非常災害時の連絡網には地域の関係者も含まれており、協力体制を整えている。また、非常持ち出し用の大きな袋に備蓄品や水、毛布、懐中電灯等を準備している。	食料等の備蓄品は2日分を考え、すぐに持ち出せるように工夫していたが、量的には1日分もない位の備蓄であったため、再度検討をすることに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については内部研修を行い、コミュニケーション講習を開催している他、ミーティング等で話し合い、人格尊重とプライバシーの確保に努めている。	利用者の言動を否定することなく、常に利用者を尊重した接遇に努めている。排泄の失敗時には、トイレ内にある小窓から下着を入れたり、汚れた下着等の処理を気付かれることなく行う等、羞恥心に配慮した支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えられやすいような対応や声かけが出来るよう、支援体制を整えている。また、本人が自己決定をしたり、希望する生活が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの希望を優先し、一日の過ごし方を決定している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みの美容院に行ったり、和服も二部式に縫い直す等、工夫したおしゃれを楽しんでいる。また、季節に合った服装を選べるように配慮している。			



自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は個々の好みを一覧にし、把握している。調理や盛り付けは一緒に行い、苦手な場合には代替食を提供している。同じテーブルで楽しく食事をし、積極的に片付けも手伝っていただいている。	食事委員会を中心に、献立は職員が作成しており、苦手なものには代替食を準備して対応している。台所はドアや敷居がなく、共用スペースから誰でも自由に入出りができ、一人ひとりの状況に応じて、下ごしらえから後始末まで、積極的にできることを行っている。また、職員も一緒に席に着いて食事を摂っており、さりげないサポートや会話を楽しみながら食事をしている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考慮した食事を提供しているが、食欲減退や食事制限等が必要な方については、摂取量を記録している。また、経腸栄養剤の活用や水分チェック表を作成している。			
42	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、本人の力に応じて支援し、一人で出来ない方にも介助しながら、清潔保持に取り組んでいる。			
43	(16) ○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄委員会が中心となり、個々の排泄表を活用して全職員が排泄パターンを把握しており、トイレ誘導して、排泄出来るように働きかけている。(おむつは使用していない)	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っており、オムツを使用している利用者はいない。また、排泄委員会を中心に自立に向けた支援についての話し合いが行われ、実践されている。		
44	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排泄へつなげられるように、朝食時に生ジュースや牛乳を提供したり、日中の運動を多く取り入れている。排泄委員会では便秘予防や対策について話し合い、自然排便につながるように取り組んでいる。			
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温泉棟・足湯があるため、毎日入浴出来る環境が整っている。また、利用者の体調や要望に合わせてながら、気持ち良く、いつでも入浴していただけるように支援している。	入浴日は設けておらず、温泉棟にて、ひのき風呂や露天風呂等を好きな時間に、毎日入浴できる体制が整っている。職員は、利用者の習慣や状態を把握し、顔色も見ながら、常に手が届く範囲で見守りをし、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日常生活の他、足湯・散歩等の日中の活動を増やし、個々の体調に合わせて、ゆったり過ごせるように支援している。</p>			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者の内服薬の目的や副作用等について、職員間で把握している。薬の変更時はケース記録にし、処方内容を確認して家族へ報告しており、症状の気づきや変化の観察に努めている。</p>			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員は、利用者が日頃から意欲をもって生活できるよう、できること・やりたいことを支援し、表情等を確認しながら取り組んでいる。</p>			
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個人的な外出希望に沿うように、時間調整しながら、気分転換を図っている。また、記念日や特別な日には、家族と自由に外出出来るように支援している。</p>	<p>利用者に寄り添う支援が行われており、「自宅に物を取りに行きたい。」「墓参りに行きたい。」等、会話で個人的な外出希望が聞かれた際は、希望を叶えられるように支援している。また、外出の際は、事前にその日の状態を確認し、利用者の体調に合わせて支援に努めている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方は自己管理のもとで金銭を所持し、自分で買い物をしていただいている。また、確認が必要な方には、個人に合わせた方法を考慮し、なるべく所持出来るように支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に、電話や手紙等、自由に家族や知人と連絡を取り合っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム前に野菜畑があり、環境づくりをしている。ホール掲示板には毎月に行事の写真を貼ったり、季節感を感じていただけるような装飾を掲示し、工夫している。また、ホールの天窓で換気ができ、冬は床段で暖かく過ごせる設備になっている。	ホームは畑や田んぼに囲まれ、広大な岩木山が望める場所に立地しており、大きな窓からは、四季折々の自然を感じられるようになっている。共有スペースのあるホールは広々としており、掘ごたつのある和室ではゆっくりと寛げるようになっている。また、ホーム内は温泉を利用した床暖房であり、快適に保たれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小あがりの和室・あずまや・テラス・足湯があり、一人になりたい時や仲良しの利用者同士でくつろげる場所として利用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや家族の写真・装飾等、本人らしい部屋作りがされており、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	利用者一人ひとりの思い出深いものや、利用していた馴染みの家具、テレビ、テーブル等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるような居室作りが行われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かした生活が送れるように、水道の高さが2種類あり、立っても車椅子の方にも利用出来るよう工夫している。必要な場所には手すりをつけ、トイレにはファンレストテーブルを設置する等、安全・自立への環境作りが出来ている。			